



愛川ふれあいの村 今月の風景

2020年2月 自然のたより

メジロが梅とカワツザクラを行ったり来たり。地面にはホトケノザやオオイヌノフグリ、少し視線を上げていくと、スイセン、紅梅、白梅と私たちの目を楽しませてくれます。空を見上げればタカの仲間がのびのびと旋回しました。池の氷の上で餌をついばむセグロセキレイはこの時期ならではの姿です。自然は絶えず変化して、いつも違うから飽きないものです。何が起ころかわからない自然のストーリーを見に村へお越しください。



カワツザクラ



コイを食べるカワウ



ミノゴケ



エナガ



カニムシ



オニシバリ



カケス



白梅



カワバを食べるヒトリ



ツツジの花を食べるヒトリ



サクラの芽を食べるウソ



ジョウビタキ♀



シダーローズ



ケンカをするツグミ



氷の上を歩くセグロセキレイ

トピックス ★幸福の花★

早春の花といえば、皆さんは何の花を思い浮かべますか？ダンコウバイ、スイセン、カタクリなどいろいろとあるかと思いますが、私が真っ先に思い浮かべるのはキンポウゲ科の黄色の花の『フクジュソウ』です。お正月の花と思われがちですが、2月～4月が開花時期でスプリングエフェメラル（春先に開花した後、夏まで葉をつけると次の春まで地中で休眠をする植物）の一つでもあります。花言葉は「幸福を招く」。寒空の中、可憐な黄色い花を見つけると、ほほえましい気持ちになります。

若い時にはフクジュソウの群生を見るために登山へ出掛けたり、以前住んでいた群馬県の山村では福寿草祭りがおこなわれたりと、いろいろと縁のある花です。この花、とても可愛いのですが、毒草で食べることはできません。ニンジンに似た葉をつけるため、食べられる野草だと勘違いしないように注意が必要です。

神奈川県内では県立の公園などで見ることができます。幸運を招く黄色い花が村にあれば、来村された方に幸せが訪れることでしょう。（鷲田）



生き物 ★冬眠★

一度は「人間も冬眠できないかな？」と考えたことはないでしょうか。

動物は寒くて食料が少ない冬期にエネルギー消費を抑えるため、活動せずに穴など気温の変化が少ない場所で過ごします。私はその代表的な動物として“熊”をイメージします。

冬眠には異温型・代謝低下型・変温型の3つタイプがあります。熊は代謝低下型（低体温状態で、エネルギー消費を抑える）です。

近年は暖冬の影響により、冬眠しきれず食料を求め、民家近くに現れる熊もいます。このままだと冬眠が必要ない時代がくるかもしれませんね。（大田）

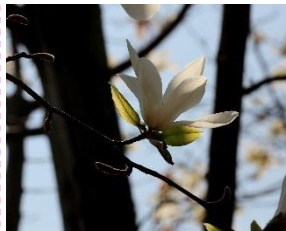


旬 ★フキノトウ★

フキノトウを見つけると「春が来たあ〜」と嬉しくなりますね。フキノトウは、一般的につぼみの状態を採取して食べます。しかし、うっかりしているとつぼみが大きくなって花が咲いてしまい残念に思うことがあります。でも大丈夫です。少し苦みが強くなりますが、食べることは出来ます。苦みを好む人は、花が咲いてから食べます。定番は『てんぷら』。衣をつけ、油で揚げると苦みを抑えることができ、塩で頂くとなお美味しいです。春を告げる『フキノトウ』を探して春を感じてみてはいかがでしょうか。（菅原）



モクレン



コブシ

「コブシ」の語源は「拳」と書き、秋に熟した実が拳に見えることからその名があります。拳の花が咲くと田おこしをするとか、拳の花が沢山咲くと豊作であるとか、農事暦に因んだ話を聞いたことがあります。コブシの花が咲き始めるとフデリンドウやイチリンソウ、ニリンソウと野の花が次々と咲き、楽しい春が駆け足でやってきます。（吉田）

来月の見どころ のうじれき 農事暦とコブシの花

モクレン科のハクモクレンやシモクレンは、中国原産の落葉広葉高木です。花芽は夏ごろ出来て春に咲きますが、蕾を見ると日当たりの良い南側が膨らんで育つので花は北を向いています。こんなことで方角が分かるのも面白いです。

よく似たコブシの花は、日本原産の落葉広葉高木で、ハクモクレンの花弁が9枚に見えるのに対して、コブシの花は6枚に見え、開花時に花の下に緑色の葉が1枚ついているのが特徴です。コブシの花は、早春に香りの良い清楚な白い花を咲かせますが、都会ではたいいてい剪定されていくので香りを感ずることは難しいです。ふれあいの村では、低い所にもあるので春の香りを楽しんでみてください。